

箱根の植物

たなか のりひさ
田中徳久 (学芸員)

箱根には、^{かみやま}神山や^{だいがたけ}台ヶ岳、^{みくにやま}三国山に広がる^{ゆがわら}ブナ林、^{がいにんざん}湯河原側の^{きんときやま}外輪山の一部などの^{ふうしやうていぼくりん}モミ林、^{おおくだに}駒ヶ岳や^{ゆのはなざわ}金時山の^{ふんきこ}風衝低木林や草原、^{せんごくばら}芦ノ湖西岸や外輪山の^{かん}外側に広がる^{おおくだに}スギ・^{ゆのはなざわ}ヒノキの^{ふんきこ}植林、^{おおくだに}大涌谷や^{ゆのはなざわ}湯の花沢などの^{ふんきこ}噴気孔周辺や^{せんごくばら}仙石原湿原などの特殊な立地の植物群落まで、非常に多彩な植物社会が、それこそ箱庭のように成立しています。そのため、その狭い地域には、1,800種を超える植物が生育しています。

また、江戸時代には、ツェンペリーらが^{えどさんぶ}江戸参府の途上、多数の植物を採集した上、明治以降も、首都東京や開港地横浜に近いことから、国内外の多くの植物学者が採集のため訪れました。そのため、ハコネシダやハコネトリカブト (図1)、ハコネギク (図2)、ハコネランなどのように和名に箱根を冠する植物や、ミヤマフユイチゴ *Rubus hakonensis* やイワニンジン *Angelica hakonensis*、ウラハグサ *Hakonechloa macra* などのように学名に冠する植物、イヌブナやサワハコベ、マツ



図1 ハコネトリカブト、ヤマトリカブトの一種とされることもある。



図2 ハコネギク。基準産地のひとつは箱根駒ヶ岳。



図3 左：ハコネコメツツジ。右：生育地の概観。風当たり強い岩塊地に生育する。

ノハマンネグサ、ヒメノガリヤスなどのように箱根を基準産地として記載された植物が非常にたくさんあります (相互に重複するものもあります)。

やはりハコネコメツツジ

そんな中で「箱根を代表する植物」を選ぶとすれば…、やはりさまざまな話題に事欠かないハコネコメツツジ *Rhododendron tsusiophyllum* Sugim. (図3) です。

ハコネコメツツジは、落葉または半常緑の低木で、茎は地面をはうようにして、多数が分枝します。葉は小型で、表面には伏せた毛があり、裏面の脈上および縁辺に褐色の毛があります。花は筒状の鐘形で、外面に毛があり、6～7月に咲き、雄しべは5本で、^{やく}葯が縦に裂けます。この花が筒状で、^{やく}葯が縦に裂ける点が、ハコネコメツツジの大きな特徴です。

原記載と学名の変遷

1870年、ロシアのマキシモウイチが、花が筒状で葯が縦裂する形質を重視して、新属新種 *Tsusiophyllum tanakae* Maxim. として記載しました。採集者はY.Tanakaとされています。

その後、1953年、『日本植物誌』の著者大井次三郎は、^{おおい じざぶろう}葯が縦裂する性質は、ツツジ属の中の異端種に過ぎないとし、ツツジ属に含める *Rhododendron tanakae* (Maxim.) Ohwi を提案しました。しかし、1956年、この学名は、台湾のアリサンシャクナゲ *R. tanakai* Hayata に採用されていることを杉本順一が指摘し、*R. tsusiophyllum* Sugim. を提唱しました。現在、ハコネコメツツジ属 *Tsusiophyllum* を

認めず、ツツジ属 *Rhododendron* に含める場合、この学名が正名とされています。

分布と生態

ハコネコメツツジは、^{ちちぶ}秩父山地が北限、^{みくらじま}伊豆七島の^{あまぎさん}御蔵島が南限で、箱根、丹沢、伊豆天城山、安部峠、^{あしたかやま}愛鷹山、^{こうづしま}神津島などに分布し、^{かんかい ち}フォッサマグナ要素の代表種とも言えます。

生育地は、風当りの強い岩塊地 (図3右) で、植物社会学的な植生単位として、ハコネコメツツジを^{ひようちやうしゆ}標徴種に、オノエランーハコネコメツツジ群集が記載されており、^{げんきさい ち}その原記載地は箱根です。

その保護

ハコネコメツツジは分布が限られることや、風衝作用により、^{ぼんさい}盆栽状の形態をとることなどから、園芸的な価値が高く、園芸目的の採取により消失の危機にさらされています。

^{しもふたごやま}下二子山では、大規模な盗掘が横行し、^{ちゆうふく}ヤマイモを掘ったかのような穴があちこちに出来たため、^{てつじやうもう}中腹に鉄条網を張り巡らし、立ち入りを制限しています。また、他の地域でも登山道やハイキング道から見える株はほぼ皆無で、目に触れるものは採集し尽くされた感があります。それ以外の本来踏み入ってはいけない場所でも盗掘は行われており、その一部は、以前、本誌 (第4巻第2号 p.14) でも紹介したことがあります。

箱根を代表する植物であるハコネコメツツジの姿が、箱根から消えてしまわないよう、その保護・保全のためのモラルの向上とさらなる^{けいもう}啓蒙が必要かもしれません。